

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 74

学校名・団体名	三重県立くわな特別支援学校
HPアドレス	<a href="http://www.mie-c.ed.jp/skuwan">http://www.mie-c.ed.jp/skuwan</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	J☆sKep アセスメントを活用したキャリア教育
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>本校では、開校からキャリア教育に力を入れて、今年度は「的確な実態把握」と豊かな生活に繋げていけるように「一貫性と継続性のある教育」の実践に重点を置いている。しかし、実態把握は行動観察による主観的なものが多く、担任が変わると捉え方が変わってしまい、そのため重点目標や指導内容も異なり、継続性のない異なったアプローチになってしまうこともある。今回、J☆sKep アセスメントを活用し、客観的な実態把握を行い、積み重ねやつながりを大切にしたキャリア教育にしていきたいと考え、この計画を立案した。</p>	

## <活動・研究報告>

### 1 研究方法

チェックリストやアセスメントを活用することで、児童生徒の客観的な実態把握を実施する。重要性・必要性についてはこれまでも言われていたが、実態把握を客観的に行うことがしばしば目的化してしまい、それをどのように活用していくかまで至らないことが多くあった。そこで活用につなげるために、今回、国立特別支援総合研究所が開発した J☆sKep アセスメントを活用し着実に教育活動の充実につなげたいと考える。現在、東京都の特別支援学校8校を定期的にコンサルテーションしているたすく株式会社が、学習を支える学びとして引き続き研究を行っている。そして、J☆sKep アセスメントを授業や個別指導にどのように生かしていくとよいかをわかりやすくまとめている。今年度本校は、J☆sKep アセスメントを軸として、たすくメソッドを全校的に学んで取り組み、一貫性・継続性のある教育活動を展開していきたいと考えている。

### 2 研究実践経過

#### 1) 5月18日(木) 全校研修会

研修テーマ設定の理由の説明、J☆sKep アセスメントの紹介を行った。児童生徒一人をピックアップして、J☆sKep アセスメントを行い、「行動管理」「コミュニケーション」「模倣」「認知」についてチェックし把握した。比較的短い時間で簡単に実施することが出来て、かつ行動観察による実態把握と同じような結果が得られたため、今後活用していくことについて全体確認することができた。

#### 2) 7月27日(木) 全校研修会

J☆sKep アセスメントを活用し、子どもの実態把握をして個別の教育支援計画・個別の指導計画の目標を立てる過程を有志教員により実演してもらい、そのプロセスを見て意見交換を行った。研修を通して、行動観察と J☆sKep アセスメントの実態把握の違いをどう捉えるか、アセスメントで得られた情報をどのように授業につなげていくかといった課題を明らかにすることができた。

#### 3) 8月1日(月) 夏季公開講座

『アセスメントに基づく療育、教育、支援～発達障がいのある子どもたちのチャレンジを支えるために～』をテーマとして、TASUC 豊橋教室篠原大一氏を講師として公開講座を行った。主体性、意欲、認知、コミュニケーション、環境、支援技術など、たすくが掲げるトータルアプローチの視点について一日通して学んだ。提供して頂いた情報量も多く、参加者が納得する場面も多々あった反面、理解しきれないところもあったので情報を定期的に提供することで全体の理解につなげていく必要があった。

#### 4) 8月30日(水) TASUC 豊橋教室見学

たすくメソッドを実際にどのように活用されているかを知るために、TASUC 豊橋教室に職員数名で訪問した。午前、療育を見学させてもらい J☆sKep を始めとしてまずアセスメントを行い、子どもたちにあった教材を適切に準備していることを教えてもらった。学習の中では、スケジュール提示をまず行い、コミュニケーションブックを用いてのやりとり、学習姿勢など基本となることを丁寧に行うことにより、主体的に学習を進める姿を見ることができた。午後からの身体づくりでも、スケジュールや手順書を用いることにより、『何を』『どれだけ』『どのようにするのか』を理解し取り組んでいた。TASUC が提唱する『(アセスメントによる) 理解が先』を目の当たりにすることができた。

#### 5) 10月26日(木) PTA 研修会

夏に公開講座で招聘した TASUC 豊橋教室篠原大一氏を講師として研修会を行った。実態把握と特性の理解を中心に実技を交えながら学んだ。研修会の中では、学校と家庭が連携して子どもの成長・学びを支えていくことが大切であることを、ケースを交えて学びし、本校でもより連携していけるようにしていこうと意識を高める機会となった。

## 6) 11月13日(月) 東京都立八王子特別支援学校 ベンチマーキング

J☆sKep アセスメントを全校的に行っている東京都立八王子特別支援学校を本校職員でベンチマーキングを行った。J☆sKep アセスメントを軸として、たすくメソッドを全校的に学んで取り組み、一貫性・継続性のある教育活動を目の当たりにすることが出来た。コラム形式で取り組みを発信し、本校でも大切にしていきたいことを整理することが出来た。

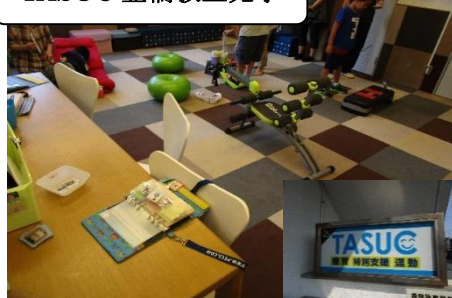
## 7) 2月17日(土) 地域講演会

TASUC 豊橋教室篠原大一氏を講師として地域講演会を行った。愛知・岐阜・三重の教員・保護者が105名参加し、学ぶことができた。講師からの一方的な発信でなく、ディスカッションや体験を行い、学びを深めることができた。福祉・医療職の方も参加していたので、学校だけでなく連携して取り組んでいくために情報交換が大切であることを再認識することができた。

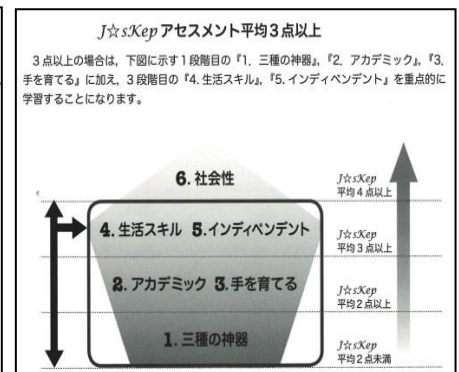
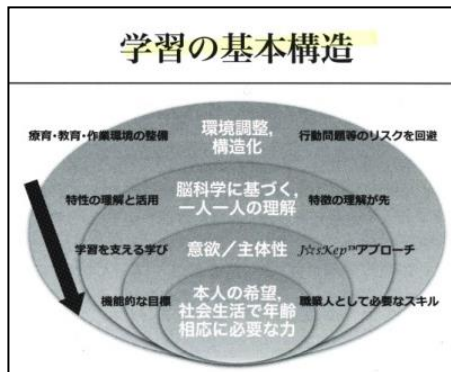
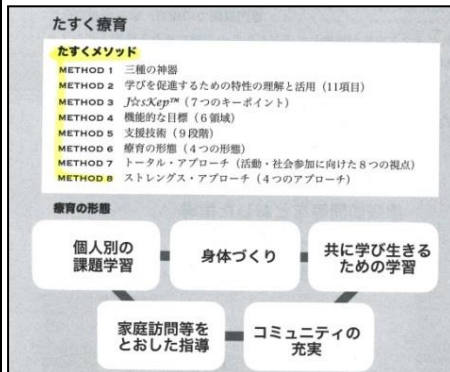
夏季公開講座



TASUC 豊橋教室見学



八王子特別支援学校訪問



## 4 活動結果と今後の課題

### ○活動結果

J☆sKep アセスメントについて研修を実施し、客観的な実態把握を行うことで、積み重ねやつながりを大切にしたキャリア教育に有効であることが分かった。そのため、日々の教育活動にどのように反映させていくために具体的に導入している TASUC 豊橋教室や東京都立八王子特別支援学校を見学した。八王子特別支援学校では、J☆sKep アセスメントを全校児童生徒に対して行い、実態把握を行っていた。それに加えて、授業案にも取り入れ、集団指導をどのように進めていくかまで発展させて活用していた。具体的な取り組みを知ることで、今後の方針を定めることができた。

また、たすくメソッドについても学びを深め、「コミュニケーション」「個別スケジュール」「タスクオーガナイゼーション」の3つの要素を大切にしていきたいこと、保護者も療育の一員として捉え協働していくことを学んだ。それらの取り組みを重ねて、一貫性と継続性のある指導・支援体制を築くことが子どもたちの豊かな生活に結びつくこと一年を通じて整理することができた。

### ○今後の課題と取り組み

今年度、定期的に取り上げることにより J☆sKep アセスメントについての理解を深めることが出来た。また研修部においても J☆sKep アセスメントをどのように導入し、実践に繋げていくとよいかを知ることができた。完全実践には至っていないので、八王子特別支援学校の取り組みを参考に2~3年の長期的な研修計画を立てて取り組みを重ねることにより、全校で取り組んでいけるようにしたい。